

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		本場結城紬振興事業						予算事業名		本場結城紬振興事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令						
				07	01	03	1103	経常経費							
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						事業の区分		主要事業					
		3-5つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)								重点事業					
		②伝統産業の振興						担当課係等		商工観光課					
		1伝統産業の振興								商工振興係					
事業期間		継続 (年度～ 年度)													
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
本場結城紬振興を目的に、本市の地域資源である「結城紬」を活用し、きもの文化及び結城紬の普及促進を図り、観光施策と結び付けることで、結城紬産地の活性化を図る。								生活様式の変化などの影響により、結城紬の生産数は減少が続いている。平成27年度より結城紬きもの貸出事業を本格的に開始。小山市でも、平成28年度より、駅前クラフト館にて同様の事業を実施している。							
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】							
駅前の観光物産センターにおいて、結城紬の地場織り実演を茨城県本場結城紬織物協同組合に委託し実施する。 市民や観光客を対象に、結城紬きもの貸出事業をゆうき着楽会に委託し実施する。 結城紬きもの貸出事業やイベント等に使用する市所有の結城紬について、結城紬きもの仕立て・整理等を行う。 着付け講座及び結城紬に関する講習会を開催することで、和装文化や結城紬の歴史に対する市民の関心を高めるとともに次世代の担い手を育成する。各種イベントにおいて結城紬着心地体験を実施し、結城紬や本市のPRを行う。 結城紬各団体に対し、結城紬振興事業の支援を行うことで、製品の販路拡大及び産地の安定を図る。								市民・観光客 「結城紬」関連組合 【事業をとりまく環境の変化】 平成27年度に結城紬きもの貸出事業が本格的に実施され、ゆうき紬着付け処『着楽』が駅前情報センターに設置された。 平成28年度には、地方創生加速化交付金を活用した結城紬ブランディング事業により、結城市伝統工芸館がリニューアルされ、結城紬を地域資源として活用した事業が展開されている。							
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】							
結城紬機織り実演事業、結城紬きもの貸出事業、着付け講座を実施。各種イベントにて結城紬着心地体験を実施。シルクのまちづくり市区町村協議会において、会長市となるため産地視察研修ほか、(仮称)ファッションショー等を開催する予定である。委託費計上する。				結城紬機織り実演事業、結城紬きもの貸出事業、着付け講座を実施。各種イベントにて結城紬着心地体験を実施。新型コロナウイルスの影響によりシルクのまちづくり市区町村協議会において、順延の際には、会長市となるため産地視察研修ほか実施する。委託費計上する。				結城紬機織り実演事業、結城紬きもの貸出事業、着付け講座を実施。各種イベントにて結城紬着心地体験を実施する。							
■事業費															
				R01年度		R02年度									
財源内訳	国	庫	支	出	金	0	0								
	県		支	出	金	0	0								
	地		方		債	0	0								
	そ		の		他	5,000	5,000								
	一		般	財	源	8,830	10,401								
歳入計(千円)				13,830		15,401									
歳出内訳	節(番号+名称)			金額(千円)			金額(千円)								
	07	報償費		155			250								
	10	需用費		149			150								
	11	役務費		492			656								
	12	委託料		3,517			3,588								
	13	使用料及び賃借料		80			45								
	15	原材料費		425			700								
	18	負担金補助及び交付金		4,012			5,012								
	20	貸付金		5,000			5,000								
	歳出計(千円)(A)				13,830		15,401								
伸び率(%)						11.35									
備考	総合計画 109, 110ページ 予算書 129ページ														
	令和2年度においては、ユネスコ10周年記念事業の冠をつけて、北部市街地の活性化を図る。 令和3年度においては、シルクのまちづくり市区町村協議会の会長市とり、産地視察研修ほか、ファッションショーなどを実施する。														

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	結城紬機織り実演	箇所	目標	2.00	2.00	2.00
	H29より伝統工芸館でも実施		実績	2.00	0.00	0.00
	市所有結城紬きもの枚数	枚	目標	56.00	59.00	63.00
	機織り実演事業及び原材料支給による成果品を仕立て、貸出事業で活用する。		実績	55.00	0.00	0.00
成果 指標	結城市伝統工芸館来館者数	人	目標	2,200.00	2,200.00	2,300.00
			実績	2,014.00	0.00	0.00
	結城紬きもの貸出件数	件	目標	80.00	80.00	81.00
			実績	71.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	本市において結城紬は地域資源であり、事業の必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	ユネスコ無形文化遺産にも登録された結城紬を活用した事業を市が実施する意義は高い。
	手段の妥当性	A 妥当である	機織り実演やきもの貸出事業については、それぞれ関連団体に委託しており、それ以外に実施可能な団体はない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	結城紬関連団体に投入した費用に対し、目に見える効果は得られないものの現状維持が図られている。また、きもの貸出を事業委託しているゆうき着楽会においては、一定レベルの成果はあげられている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広く一般市民・観光客に対する事業を行っている。 補助事業については、受益者は限定されている。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	結城紬の振興に対して、これまで様々な施策を講じてきた。結城紬従事者や生産反数の減少はあるものの、大幅な減少ではなく微減となっている。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	結城紬機織り実演については、成果物(反物)を本事業において着物に仕立て、貸出事業との連携を図っている。結城紬きもの貸出事業においては、ゆうき着楽会と連携しながら市内をはじめ県外に向けて結城紬のPRを行っている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
機織り実演においては、当初物産センターのみで実施していたが、H29より結城市伝統工芸館において実演を実施している。観光客から、伝統工芸士の職人の技に興味を持ち、そこから体験に繋がっていることもある。結城紬きもの貸出事業は順調に推移しており、市民の認知度も高まってきた。ゆうき着楽会においては、首都圏イベントにも積極的に参加している。現在では埼玉・千葉・東京・神奈川県からの観光誘客を図っている。結城紬関連団体においては、各団体が単体で行うのではなく、連携して実施できるような仕組みづくりが必要と思われる。令和2年度はユネスコ10周年、令和3年度シルクのまちづくり市区町村協議会の会長市となり事業を実施する。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
結城市伝統工芸館の機織り実演について、令和元年度では土日祝日の実演を予算化し来場者の動向をみて、令和2年度以降、繁忙期(大型観光客)の際に実演ができる体制を作る。また、伝統工芸館内においては、令和元年度より織協へ依頼し企画展を実施してみたが、今後もブラッシュアップして実施する。また、着楽会においては、貸出事業だけでなく独自事業としてワークショップを開催し、積極的に結城紬のPRを行っている。また、結城紬関連団体について、各団体が連携し組合独自で補助金が取得できるよう支援を行っている。今後も結城紬関連団体と情報を密にし、産地の活性化につなげていく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 検査反数が減少してるのに加え、各団体では後継者不足が深刻である。そのような状況で各団体独自に運営しているが、織協が中心となり生産部門を一元化し、部会として活動することで組織強化出来ないか。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	